

社会資本整備審議会道路分科会 第2回東北・関東地方合同小委員会  
【議事概要】

1. 日 時

平成25年10月4日（金）10：30～12：20

2. 場 所

東北地方整備局（二日町庁舎）2F 大会議室

3. 出席者

〈委員長〉

大滝 精一 東北大学大学院 経済学研究科長 経済学部長 教授

〈東北委員〉

泉山 元 青森経済同友会 幹事  
(三八五流通(株)代表取締役社長)

大泉 太由子 (公財)東北活性化研究センター  
調査研究部 専任部長兼主席研究員

大沼 賀世 (公財)致道博物館 非常勤学芸員

加賀谷 聡一 酒田商工会議所青年部 会員  
(株)酒田港リサイクル産業センター 代表取締役)

浜岡 秀勝 秋田大学工学 資源学部土木環境工学科 准教授

福迫 昌之 東日本国際大学 経済情報学部長 教授

南 正昭 岩手大学工学部 教授

渡辺 泰宏 (一社)東北経済連合会 専務理事

〈関東委員〉

久保田 尚 埼玉大学大学院 理工学研究科 教授

小濱 哲 横浜商科大学 貿易・観光学科 教授

二村 真理子 東京女子大学 現代教養学部国際社会学部 准教授

味水 佑毅 高崎経済大学 地域政策学部観光政策学科 准教授

4. 議事内容

○審議結果

- ・一般国道6号茨城県北茨城市～福島県いわき市間（勿来バイパス）計画段階評価について、委員からの意見を事務局で検討の上、第2回意見聴取を進めることを了承する。

## ○主な意見

- ・資料1のP, 9、10を比較すると、道路整備が必要だと思わない意見の方が多いように見える。整備が必要とする意見が多いため、P, 9に「同様の意見が他〇件」等と記載すれば全体のボリューム感が伝わるのではないか。
- ・ルート帯案の比較表について、工事期間や工事による交通規制など、生活に係わる影響も記載し比較すべき。
- ・ルート帯を設定する上でコントロールポイントである鉄道駅や観光地などは、主要な箇所からも離れ過ぎないということもあるのではないか？そう考えるとP, 22の比較表でバイパス案はポジティブに記載すべき。
- ・例えば当該区間にバイパスが整備された場合に、その前後区間の道路状況（車線数など）等も必要な情報のため、分かり易くする工夫すべき。
- ・ルート帯案比較の観光地等へのアクセス性について、「バイパスだから遠くなる」のではなく、バイパスへ交通が転換することにより「現道の交通量が減り、アクセス性が向上する」と言えるのではないか。
- ・両案の比較項目は、ほとんどが一方にとって長所となる記述の仕方だが、両案とも長所になる記述であっても良い。
- ・国際バルク港湾である小名浜港や鹿島港などを結びつける重要な路線であり、当該区間はエネルギー分野でも重要と考える。企業アンケートには物流、エネルギー、食料関連の企業も対象に入れるべき。
- ・アンケートの設問は、両案のどちらかを選ぶ設問でないので大変良いと思う。
- ・前回のアンケート回答者は高齢者の割合が高く、自動車を利用する人からの回答が低いと思われるため、今回のアンケートには「普段自動車を運転される方がご記入下さい」と注意書きを入れるなど工夫すべき。
- ・アンケート質問④について、全体的に「交通事故が少ない道路」という表現でなく、整備効果を表現するような記載、例えば「交通事故を減らせること」など記載方法を検討すること。
- ・アンケート質問③は、回答1、2を選択した人しか質問④を回答出来ない記載であるが、質問④は幅広く回答できるようにすべき。